

番号	訂正箇所		原文	訂正文																								
	ページ	行																										
1	37	9	最大目盛 $V_m = 50 \text{ mV}$	最大目盛 $V_v = 50 \text{ mV}$																								
2	100	図2	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">固定コンデンサ</td> <td>セラミック コンデンサ</td> <td>フィルム コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">可変コンデンサ</td> <td>半固定 コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> </tr> <tr> <td>アルミニウム 電解コンデンサ</td> <td>タンタル 電解コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> <td>ポリエステル 可変コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> </tr> </table>	固定コンデンサ	セラミック コンデンサ	フィルム コンデンサ	(図記号)	可変コンデンサ	半固定 コンデンサ	(図記号)	アルミニウム 電解コンデンサ	タンタル 電解コンデンサ	(図記号)	ポリエステル 可変コンデンサ	(図記号)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">固定コンデンサ</td> <td>セラミック コンデンサ</td> <td>フィルム コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">可変コンデンサ</td> <td>半固定 コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> </tr> <tr> <td>アルミニウム 電解コンデンサ</td> <td>タンタル 電解コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> <td>ポリエステル 可変コンデンサ</td> <td>(図記号)</td> </tr> </table>	固定コンデンサ	セラミック コンデンサ	フィルム コンデンサ	(図記号)	可変コンデンサ	半固定 コンデンサ	(図記号)	アルミニウム 電解コンデンサ	タンタル 電解コンデンサ	(図記号)	ポリエステル 可変コンデンサ	(図記号)
固定コンデンサ	セラミック コンデンサ	フィルム コンデンサ	(図記号)		可変コンデンサ	半固定 コンデンサ	(図記号)																					
	アルミニウム 電解コンデンサ	タンタル 電解コンデンサ	(図記号)	ポリエステル 可変コンデンサ		(図記号)																						
固定コンデンサ	セラミック コンデンサ	フィルム コンデンサ	(図記号)	可変コンデンサ	半固定 コンデンサ	(図記号)																						
	アルミニウム 電解コンデンサ	タンタル 電解コンデンサ	(図記号)		ポリエステル 可変コンデンサ	(図記号)																						

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
3	224	16 — 18	<p>■問32 図 36 において、抵抗 $R = 4 \Omega$、容量性リアクタンス $X_C = 8 \Omega$、電圧 \dot{V} と電流 \dot{I} との位相差 $\theta = 0.25 \text{ rad}$ のとき、誘導性リアクタンス X_L を求めよ。</p>	<p>■問32 図 36 において、抵抗 $R = 4 \Omega$、容量性リアクタンス $X_C = 8 \Omega$、電圧 \dot{V} と電流 \dot{I} との位相差 $\theta = 0.25 \text{ rad}$ のとき、誘導性リアクタンス X_L を求めよ。ただし、回路全体では容量性を示すこととする。</p>
4	240	左 14	<p>全体に<u>成れる</u>電流 I は、</p>	<p>全体に<u>流れる</u>電流 I は、</p>